

指導と評価の年間計画 論理国語

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
論理国語	2 年 文系	2	精選 論理国語 (三省堂)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字 (第一学習社) 新現代文単語 (いいずな書店)

科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになることで、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語を尊重し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習活動	①授業は予習を前提にして進みます。論理的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力 ②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文、小論文に取り組むこともあります。思考力・表現力・協働力 ③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力 ④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。定期的にブックレポートの提出を求めます。省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	思考・判断・表現 「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 論理国語へのいざない(読む) 論理力と思考力 納得の構造 ■ 「情報社会」を生きる I (読む) ぬくみ ネット上の発言の劣化について ■ 環境問題を考える(読む) 世代間倫理としての環境倫理学 人類による環境への影響について ■ 言葉を見つめる I (読む) 記号を使う動物 言葉がつくる女と男	□ 思考力と対比して論理力とは何かを考える。 □ 論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。 □ 都市生活における自己と他者の関係について具体例を挙げながら考える。 □ 筆者の考えを踏まえたうえで、情報の階層化が進むなかで「言論の自由」の意味について考える。 □ 文章の構成や展開の仕方に着目するとともに、未来世代への責任という観点から環境問題を考える。 □ 環境に関する取り組み例について調べ、まとめる。 □ 対比される内容を踏まえて理解するとともに、人類史から環境問題を考える。 □ 記号としての言語について、具体例と関連付けて理解する。 □ 対比される用語や根拠を確認しながら筆者の考えを理解したり、言葉とアイデンティティの関係について論じたりする。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 生命について考える(書く) 病と科学 動的平衡 ■ 芸術について考える(書く) ミロのヴィーナス 空白の意味 ■ 科学技術と人間(読む) 「なぜ」に答えられない科学 A I 時代の「人間」 ■ 「市民社会」について考える(読む) 「市民」のイメージ 「である」ことと「する」こと	□ 「痛み」に着目して医療や科学の限界について調べたり考えたりする。 □ 生命に関する筆者の考え方を理解したうえで、バイオテクノロジーの「現在」について、どのようなものがあるか調べ発表する。 □ 筆者の考えや表現の工夫やその効果について考察する。 □ 芸術作品における「空白」の意味について考え、具体例を挙げて論じる。 □ 科学の知とはどのようなものかを具体例と関連付けて理解する。 □ 具体例と関連付けながら筆者の考えを理解するとともに、A I との対比から「人間」についての理解を深める。 □ 帰納的な文章展開を理解するとともに、アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える。 □ 対比される事項を整理しながら、「市民社会」における権利と義務について論じる。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 論理国語

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
論理国語	2 年 理系	1	精選 論理国語 (三省堂)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字 (第一学習社) 新現代文単語 (いいずな書店)

科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになることで、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語を尊重し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習活動	①授業は予習を前提にして進みます。論理的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力 ②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文、小論文に取り組むこともあります。思考力・表現力・協働力 ③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力 ④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。定期的にブックレポートの提出を求めます。省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	思考・判断・表現 「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 論理国語へのいざない(読む) 論理力と思考力 ■ 「情報社会」を生きる I (読む) ぬくみ ■ 環境問題を考える(読む) 世代間倫理としての環境倫理学 ■ 言葉を見つめる I (読む) 記号を使う動物	☐ 思考力と対比して論理力とは何かを考える。 ☐ 都市生活における自己と他者の関係について具体例を挙げながら考える。 ☐ 文章の構成や展開の仕方に着目するとともに、未来世代への責任という観点から環境問題を考える。 ☐ 環境に関する取り組み例について調べ、まとめる。 ☐ 記号としての言語について、具体例と関連付けて理解する。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 生命について考える(書く) 病と科学 ■ 芸術について考える(書く) ミロのヴィーナス ■ 科学技術と人間(読む) 「なぜ」に答えられない科学 ■ 「市民社会」について考える(読む) 「市民」のイメージ	☐ 「痛み」に着目して医療や科学の限界について調べたり考えたりする。 ☐ 筆者の考えや表現の工夫やその効果について考察する。 ☐ 科学の知とはどのようなものを具体例と関連付けて理解する。 ☐ 帰納的な文章展開を理解するとともに、アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 文学国語

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
文学国語	2 年	文系 2 理系 2	精選 文学国語 (三省堂)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字 (第一学習社) 新現代文単語 (いっずな書店)

科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになることで、言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習活動	①授業は予習を前提にして進みます。論理的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力 ②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文、小論文に取り組むこともあります。思考力・表現力・協働力 ③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力 ④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。定期的にブックレポートの提出を求めます。省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	思考・判断・表現 「書くこと」「読むこと」の領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■小説の言葉・詩の言葉 夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について 詩はいつでも近いところにある ■小説(一) 山月記 少年という名前のメカ 学びを広げる(小説の書き換え) ■詩歌 今日 わたしを束ねないで 帰途 学びを広げる(短歌の創作) ■小説(二) ひよこの眼 神様	□言葉の働きを踏まえ、物語の力について考える。 □構成や描写の仕方など、詩の言葉の特徴を理解する。 □会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。 □語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価したうえで、小説の寓意について考える。 □登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換える。 □表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 □日常生活の中で感じたことをもとに短歌を創作する。 □回想形式に留意して、小説の内容を理解する。 □非現実的な設定をもつ小説の魅力について考える。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■翻案 ありとぎりぎりす [参考]セミとアリ 学びを広げる(翻案作品の創作) ■戯曲の言葉 戯曲の中の「対話」 [参考]平田オリザ『東京ノート』より ■小説(三) ころこ 捨てない女 ■評論 文学の仕事 お砂糖とスパイスと爆発的な何か	□「ありとぎりぎりす」と「セミとアリ」を読み比べ、物語の形式、ストーリー展開、描写のあり方について整理する。 □翻案小説の魅力について考える。 □古典を題材にして翻案小説を書く。 □芝居のせりふと日常会話、戯曲の対話と小説の会話の違いを理解する。 □「東京ノート」について、セリフの特徴を指摘し、配役を決めて読む。 □小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する。 □作品世界が現代に投げかけている問題について考える。 □想像や心情を豊かにするという言葉の働きを理解し、「文学の力」について考える。 □「フェミニスト批評」「クィア批評」がもたらす「楽しみ」について整理し、批評について理解を深める。 □自己の読書体験を振り返ったり、筆者の視点に立って文学作品の批評文を書いたりする。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典探究

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
古典探究	2 年	文系 2 理系 2	高等学校 古典探究 (数研出版)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 体系古典文法 (数研出版) 古文単語330 (いっずな書店) 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深め、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりし、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習活動	①【授業】音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。歴史的仮名遣いや、古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、小テスト等で習得します。基礎的事項の習得と並行して、作品の解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。また、作品・作者などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成することもあります。<u>教養力・思考力・表現力・協働力</u> ②【家庭学習】現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読、本文の視写、品詞分解、現代語訳を行います。漢文は、音読、書き下し文、訓点の記入、現代語訳を行います。辞書をしっかり活用して解釈しましょう。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもプリントやワークブックの課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。<u>教養力・思考力・表現力・省察力・志力</u> ※定期考査、実力テストに向けて 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。<u>思考力・表現力・省察力</u>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価 ○小テスト	○定期考査 ○課題テスト ○授業・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 説話 十訓抄 沙石集 古今著聞集 ■ 歌物語 伊勢物語 大和物語 ■ 随筆 方丈記 徒然草 ■ 歴史物語 大鏡 ■ 物語 源氏物語	□ 古文の調子を味わいながら音読する。 □ 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読みとる。 □ 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 □ 描かれた場面や情景、登場人物の心情を考え、理解する。 □ 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。	単元ごとに「学習」と「言語活動」をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	■ 故事 ■ 逸話 ■ 史伝 鴻門之会 四面楚歌 ■ 漢詩 中国の詩 日本の詩	□ 漢文の調子を味わいながら音読する。 □ 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読みとる。 □ 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 □ 漢詩にうたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 □ 漢詩のきまりを理解する。	
後 期	■ 日記文学 更級日記 建礼門院右京大夫集 十六夜日記 ■ 軍記物語 平家物語 ■ 随筆 枕草子 ■ 和歌 古今和歌集仮名序 和歌・歌謡	□ 古文の調子を味わいながら音読する。 □ 筆者のものの見方、考え方を理解する。 □ 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする □ 作品の意義や作者など文学史に関する事柄を理解する。 □ 作品に書かれた時代の習俗や人々のものの考え方、歴史的事項などを理解する。 □ 主題を読みとる。 □ 和歌に託された心情を理解する。 □ 枕詞や掛詞などの修辞法を理解する。	単元ごとに「学習」と「言語活動」をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	■ 思想 論語 孟子 荀子 老子 莊子 韓非子 ■ 文章 漁父辞 桃花源記 売油翁 ■ 史伝 史記	□ 作品に描かれた人物、心情、情景などを自分なりに読み味わう。 □ 文脈に注意しながら正確かつなめらかに音読する。 □ 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 □ 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理探究

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
地理探究	2 年	文系 3 理系 3	地理探究(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2024(帝国書院) データブック オブ・ザ・ワールド 2025(二宮書店)

科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		
学習活動	① 授業は単元ごとに問いを設け、世界の自然と人間生活への理解を深めていきます。 教養力・思考力・志力 ② 白地図や図表などを用いた作業学習を行い、諸事象に対する空間的な見方を養います。 思考力・表現力・協働力 ③ テストの振り返りや問題集を用いた演習を通じて知識や思考力を身につけます。 教養力・思考力・省察力 ④ iPad やコンピュータなど情報機器を活用した、情報収集や GIS 活用能力を養います。 教養力・表現力・協働力・省察力 ※ 日頃より、身近な地域の姿や国内外の自然や社会についてのテーマ、災害や防災に関心を持っておくことが、地理学習の深化につながります。		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしたことができたか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚することができたか。	○世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを解決する取り組みが行えたか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができたか。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすること
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1. 自然環境 ・地形 ・気候と生態系 ・世界各地の自然と生活 ・日本の自然環境と防災 ・地球環境問題	地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 地球環境問題に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	2. 資源と産業 ・農林水産業 ・資源・エネルギー ・工業 ・第3次産業	農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。工業立地や変化などに注目して、「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。第3次産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化に注目して、「サービス経済化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	
後 期	3. 人・モノ・金のつながり ・交通・通信 ・貿易・観光 4. 人口、村落・都市 ・人口 ・村落・都市 5. 文化と国家 ・生活文化と言語・宗教 ・国家とその領域	交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して、「交通と通信の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史探究

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
日本史探究	2 年	3	日本史探究詳説日本史（山川出版社）	詳説日本史（浜島書店） 日本史重要語句 Check List2025 年度版（啓隆社） 日本史用語集（山川出版社）

科目の目標	(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
学習活動	① 授業はプリント学習を中心に行います。その際、より考察力・理解度を高めるために史料集や図説なども用いて学習を行います。「なぜ」という視点を持って授業に臨んでください。【教養力・思考力・表現力・省察力・協働力】 ② 基本は授業に集中すること、復習です。週末ごとに1週間の内容を、必ず教科書を読みながら復習しましょう。その際に、出来事・人物にのみ着目せず、時代背景や当時の価値観にも注目し、その時代のイメージをつくり、流れで捕らえましょう。【教養力・思考力・省察力・志力】 ③ 覚えることは不可欠ですが、歴史事項の関連性を常に意識することが、授業でも復習でも大切です。【思考力・表現力・省察力・協働力・志力】 ④ 書物やテレビなどにおいて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。【教養力・志力】		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1 原始古代の日本と東アジア ・日本文化のあけぼの ・古墳と大和政権 ・律令国家の形成 ・貴族政治の展開 2 中世の日本と世界 ・院政と武士の躍進 ・武家政権の成立 ・武家社会の成長 3 近世の日本と世界 ・近世の幕明け	○歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。 ○自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 ・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ・貴族政治の展開、文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ○中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ○歴史資料の特性を踏まえ、資料を通じて読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。 ・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。 ・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地方権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。 ○近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ○歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。 ・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係などを基に、幕藩体制の確立の特色を理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①，②，③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	・幕藩体制の成立と展開 ・幕藩体制の動揺 4 近現代の地域・日本と世界 ・近世から近代へ ・近代国家の成立 ・近代国家の展開 ・近代の産業と生活 ・恐慌と第二次世界大戦 ・占領下の日本 ・高度成長の時代 ・激動する世界と日本	・支配秩序の形成と身分制、技術の向上と開発の進展、産業の発達、学問・文化の発展を基に、近世の社会・文化の特色を理解する。 ・飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。 ○近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ○歴史資料の特性を踏まえ、資料から読み取れる情報から、近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。 ・明治維新、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、日本が立憲体制に移行したことや、明治初期の文化の特色について理解する。 ・条約改正、日清・日露戦争、産業革命の展開、交通の整備、学問の発達、教育制度の確立、社会問題の発生などを基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容、近代の文化や社会の特色について理解する。 ・第一次世界大戦、産業構造の変化、社会運動の動向、政党政治の展開、学問の発展や教育制度の拡充などを基に、国際社会との関係の変容や、産業の発展の影響や大衆社会・文化の形成を理解する。 ・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 ・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興などを基に、我が国の再出発及び国民生活の変容を理解する。 ・アジア諸国との関係、高度経済成長などを基に、政治・経済や対外関係、国民生活の変容を理解する。 ・社会・経済・情報の国際化などを基に、1970年代以降の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する	単元ごとに、「学習活動」の①，②，③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史探究

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
世界史探究	2 年	3	詳説世界史(山川出版社)	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）

科目の目標	(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
学習活動	① 授業は、主にプリントを用いて歴史の流れや出来事を理解する学習を中心に行います。その際、より理解度を高めるために資料集を活用します。教養力 ② 各単元で1回以上、「課題解決プリント」に個人・ペア・グループで取り組む活動を行います。思考力・表現力・協働力 ③ 一つの「めあて」についての学びが完成した段階で、「リフレクションシート」を用いて、学びの内容と学びを通して生まれた自分の考えの変容（深化）を言語化してもらいます。省察力 ④ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり問題集を解くなどして知識の定着を図ります。教養力 ※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力 ※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 ○諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている
評価方法	○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○リフレクションシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○リフレクションシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 ・文明の成立と古代文明の特質 ・中央ユーラシアと東アジア世界 ・南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・西アジアと地中海周辺の国家形成	○人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握する。 ・西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握する。 ・南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握する。 ・東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握する。 ・主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 ・イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・ヨーロッパ世界の変容と展開 ・東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・大交易・大交流の時代 ・アジアの諸帝国の繁栄 ・近世ヨーロッパ世界の動向	○ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握する。 ・アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握する。 ・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握する。 ・内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握する。 ・空間軸からみる諸地域世界同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得する。	
	第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 ・産業革命と環太平洋革命	○アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 ・西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中で日本の位置付けを理解する。	
後 期	・イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動 ・第一次世界大戦と世界の変容 ・第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。 ・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。 ・世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解する。 ・世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	第Ⅳ部 地球世界の課題 ・冷戦と第三世界の台頭 ・冷戦の終結と今日の世界	主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得する。 ○科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解する。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望する。 ・科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察する。 ・総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察する。 ・米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察する。 ・市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質を考察する。 ・地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 公共

科目	学年	単位数	教科書	副教材
公共	2年	2	高等学校 新公共（第一学習社）	最新図説公共（浜島書店）

科目の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （２）現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 （３）よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
学習活動	① 単元ごとに課題、問いを設定し、教科書、図説などを用いて、現代社会に関わる諸事象について思考・判断し、その結果を表現しながら学習していきます。思考力・表現力 ② 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとに日頃のプリント内容を反芻するなどして、また問題を繰り返して知識の定着をはかりましょう。教養力 ③ 日頃より新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持つように心がけ、現代社会に生きる一員として社会に出た時に必要となる、市民的資質を高めることを目指していきます。志力・省察力 これら 3 つの活動は、それぞれに以下の図のように繋がっており、市民的資質を持って、社会に出て市民として求められる態度、行動を育てることを目標としています。		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。	主体的に学習に取り組む態度 現代の課題を主体的に解決しようとする態度を養い、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図り、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 公共の扉 (1) 公共的な空間をつくる私たち (2) 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 (3) 公共的な空間における基本的原理	・社会に参画する自立した主体として、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学び、公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学び、伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解する。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解し、選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。 ・人権保障のありみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③にそって、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち (1) 法的な主体となる私たち (2) 政治的な主体となる私たち (3) 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解し、身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・消費者と事業者を対等な立場に置き、消費者主権を実現するために、消費者に関する法律が定められていること、個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解し、司法権の独立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲審査権から理解する。 ・民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任、選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割、主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。 ・国際社会を実現するために必要な日本の役割、今日の国際社会の特徴人種・民族問題と地域紛争の背景、現状を理解する。 ・経済の基本的なしくみを理解し、経済的意思決定が将来の選択に役立つこと労働者を守るための法や権利、グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会における働き方について理解する。 ・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみ、市場の原理、金融、少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行える。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③にそって、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学Ⅱ	2 年	3	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	新課程クリアー数学ⅡBC (数研出版) チャート式解法と演習数学ⅡBC (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理することができる。	思考・判断・表現 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・事象を三角関数や指数関数・対数関数またを微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

※理系は数学Ⅱの履修終了後、数学Ⅲを履修します。次ページの年間指導計画は文系のものです。

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理	☐ 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 ☐ 三角関数の周期とグラフの形の関係、定義域に注意して正しいグラフがかけられる。 ☐ 三角関数を含む方程式、不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 ☐ 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ☐ 三角関数の合成や各公式を活用して、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第5章 指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数	☐ 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ☐ 指数関数、対数関数を活用して、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ☐ 常用対数を利用して、桁数や小数首位を求めることができる。	
後 期	第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 関数の値の変化 3 積分法	☐ 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ☐ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ☐ 方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ☐ 不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	
	課題学習	☐ 今までに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学Ⅲ	2 年	1	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	新課程クリアー数学Ⅲ (数研出版) チャート式解法と演習数学Ⅲ C (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 ・極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	思考・判断・表現 ・数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりすることができる。 ・いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、している。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

※理系は数学Ⅱの履修終了後、数学Ⅲを履修します。

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期			
後 期	第1章 関数	☐ 分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ☐ 分数関数を $y=k/(x-p)+q$ の形に変形し、漸近線を求めてグラフをかくことができる。 ☐ グラフを利用することで、分数不等式を解くことができる。 ☐ 無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ☐ 連立方程式を解くことで、無理関数のグラフと直線の共有点の座標を求めることができる。 ☐ グラフを利用することで、無理不等式を解くことができる。 ☐ 逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。 ☐ 合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の合成関数を求めることができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第2章 極限 1 数列の極限 2 関数の極限	☐ 数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。 ☐ 不定形を解消するなど、数列の式を適切に変形することで、収束・発散を調べることができる。 ☐ 数列の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。 ☐ 無限等比数列を、公比の値で場合分けし、その極限を考察することができる。 ☐ 無限級数の収束・発散を、部分和の極限を調べることで考察することができる。 ☐ 無限級数、無限等比級数の定義を理解し、収束・発散について調べることができる。 ☐ グラフを参考にしながら、関数の右側極限、左側極限、関数の極限の有無について考察することができる。 ☐ を利用して、三角関数を含む様々な関数の極限值を求めることができる。 ☐ 定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学 B	2 年	1	高等学校 数学 B (数研出版)	新課程クリアー数学ⅡBC (数研出版) チャート式解法と演習数学ⅡBC (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数値化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 ・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ・数学的帰納法について理解している。	思考・判断・表現 ・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 ・自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第 1 章 数列 1 等差数列と等比数列 2 いろいろな数列 3 漸化式と数学的帰納法	☐ 初項と公差を文字で表して、条件から等差数列の一般項を決定できる。 ☐ 等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 ☐ 初項と公比を文字で表して、条件から等比数列の一般項を決定できる。 ☐ 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 ☐ 数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 ☐ 種々の数列の和を工夫して求めることができる。 ☐ 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ☐ 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 ☐ 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 ☐ 数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。
後 期	第 2 章 統計的な推測 1 確率分布 2 統計的な推測	☐ 確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。 ☐ 確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 X と $aX+b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。 ☐ 二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 X が条件をみたす確率や、平均、分散を求めることができる。 ☐ 連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。 ☐ 母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 ☐ 母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。 ☐ 得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。 ☐ 得られた標本から母集団に関する主張が妥当かどうかを判断する方法として、正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し、母平均および母比率に関する主張について仮説検定することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 C

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学 C	2 年	1	高等学校 数学 C (数研出版)	新課程クリアー数学ⅡBC (数研出版) チャート式解法と演習数学ⅡBC (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 ・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。 ・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。 ・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。	思考・判断・表現 ・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。 ・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期			
後 期	第 1 章 平面上のベクトル 1 ベクトルとその演算 2 ベクトルと平面図形	☐ ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みを理解している。 ☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。 ☐ ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 ☐ ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 ☐ 線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。 ☐ 3 点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 ☐ 線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 ☐ 直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線の方程式と関連付けることができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第 2 章 空間のベクトル	☐ ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 ☐ 空間のベクトルを与えられた 3 つのベクトルで表すことができる。 ☐ ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 ☐ 3 点で定まる平面上に点 P があることを、ベクトルで表現して利用できる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学総合研究

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学総合研究	2 年	1	高等学校 数学Ⅱ 高等学校 数学 B（数研出版）	新課程クリアー数学ⅡBC（数研出版） チャート式解法と演習数学ⅡBC（数研出版）

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動を行います。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数列の一般項や和を求める方法について理解している。・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理することができる。	思考・判断・表現 ・数や関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。 ・関数の局所的な変化や事象から離散的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。 ・事象の再帰的な関係に	主体的に学習に取り組む態度 ・事象を三角関数や指数関数・対数関数、微分・積分、数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

※理系は数学Ⅱの履修終了後、数学総合探究を履修します。

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期			
後 期	課題学習	☐ 数学Ⅱ・Bで学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。 ☐ 定着しにくい分野を中心に復習し、基礎事項の徹底および弱点補充、強化を図る。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
物理基礎	2 年	1	高等学校 新物理基礎 (第一学習社)	新課程 レットライノート 物理基礎 (東京書籍)

科目の目標	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを もって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的 に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて 理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的 な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態 度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。<u>教養力・表現力</u> ②【わかったを実感】対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。<u>思考力・表現力・協働能力</u> ③【できたを実感】問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。<u>思考力・省察力</u> ④【わかったを実感】観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して学習活動準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。<u>思考力・省察力・協働能力</u> ⑤【家庭学習への繋がり】授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。<u>教養力・省察力・志力</u> ⑥【その他】授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。<u>教養力・志力</u>		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働能力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身につけている	思考・判断・表現 実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	主体的に学習に取り組む態度 様々な現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価方法	○定期考査	○定期考査 ○授業状況の観察 ○実験レポート	○振り返りシート ○授業状況の観察 ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第１節 物体の運動 第２節 力と運動の法則 第３節 仕事と力学的エネルギー 第Ⅱ章 熱 第１節 熱とエネルギー 第Ⅲ章 波動 第１節 波の性質 第２節 音波	・物体の運動の表し方を理解する。 ・物体の運動状態や物体のもつエネルギーの表し方を、実験や考察を通して理解する。 ・エネルギーの最も身近で重要な形態である熱の本質を理解する。 ・熱の現象とエネルギーの関係、熱の利用について理解する。 ・音や電波、光などの波が身の回りにあることを知り、波の一般的な性質を理解する。 ・音について詳しく理解する。	授業態度， 発問評価， 定期考査， 実 験 レ ポ ー ト， 振り返りシート
後 期	第Ⅳ章 電気 第１節 電荷と電流 第２節 電流と磁場 第３節 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界	・電気や磁気の性質を理解する。 ・電気や磁気の利用について、安全性と効率性を理解する。 ・自然界のエネルギーをどのように利用できるかを理解する。 ・物理学の発展がこれからの世界をどう切り拓いていくかを考える	授業態度， 発問評価， 定期考査， 実 験 レ ポ ー ト， 振り返りシート

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
物理	2 年	2	物理 (第一学習社)	セミナー物理 (第一学習社)

科目の目標	中学校理科及び「物理基礎」との関連を図りながら、物理的な事物・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力 ②【わかったを実感】対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働力 ③【できたを実感】問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力 ④【わかったを実感】観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して学習活動準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。思考力・省察力・協働力 ⑤【家庭学習への繋がり】授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力 ⑥【その他】授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価方法	○定期考査	○定期考査 ○授業状況の観察 ○実験レポート	○振り返りシート ○授業状況の観察 ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第 I 章 運動とエネルギー 第 1 節 平面運動と放物運動 ①平面運動 ②放物運動 第 2 節 剛体のつりあい ①剛体にはたらく力とその合力 ②剛体の重心とつりあい 第 3 節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数 探究 1 反発係数の測定	- 直線運動を拡張した平面の運動における位置や変位，速度，速度の合成・分解，相対速度，加速度について理解する。 「物理基礎」で学習した自由落下や鉛直投げ上げの内容を確認し，水平投射や斜方投射のそれぞれの運動について理解する。 - 物体が空中を落下するときのようすを調べ，空気抵抗の特徴について理解する。 - 力のモーメント，剛体のつりあい，剛体にはたらく 2 力の合成，偶力などを学習し，剛体にはたらく力について理解する。 - 重心について学習し，剛体にはたらく力のモーメントのつりあいの式の立て方を理解する。 - 運動量について学習し，運動方程式を用いて，運動量の変化と力積の関係を理解する。 - 物体にはたらく力の大きさが変化する場合について，力と時間の関係を示すグラフのようすから，平均の力を理解する。 - 運動量と力積の関係をj用いて，運動量保存の法則を導き，直線上や平面上での衝突，物体が分裂，合体する場合のそれぞれで，運動量保存の法則が成り立つことを理解する。 - 反発係数を学習し，反発係数の値と衝突前後における力学的エネルギーの変化との関係を理解する。	授業態度， 発問評価， 定期考査， 実 験 レ ポ ー ト， 振り返りシート
	第 4 節 円運動と単振動 ①円運動 探究 2 等速円運動の角速度 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動 探究 3 天体からの脱出速度 第 5 節 気体の性質と分子の運動 ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事 探究 4 熱機関の製作	- 等速円運動の角速度，周期，回転数，速度を学習し，加速度と向心力を理解する。 - 遠心力を含めた慣性力を学習し，物体にはたらく力を異なる観測者の立場で把握できるようにする。 - 単振動と等速円運動の関係から，速度や加速度，復元力を表す式について理解する。 - ばね振り子や単振り子について，物体が受ける力を把握し，周期を導出できるようにする。 - ケプラーの法則，万有引力の法則を学習し，万有引力と重力の関係を定量的に理解する。 - 万有引力による位置エネルギーを学習し，物体の力学的エネルギーについて理解する。 - ボイルの法則やシャルルの法則などの気体に関する法則を学習し，理想気体の状態方程式について理解する。 - これまで巨視的な扱いをしてきた気体の圧力について，分子レベルでの考え方を理解する。 - 気体の内部エネルギー，気体の体積変化に伴う仕事を学習し，熱力学の第 1 法則を理解する。 - 定積変化や定圧変化などの気体の状態変化を学習し，各状態変化で熱力学の第 1 法則を適用できるようにする。 - 熱機関の熱効率を復習し，気体の状態変化と関連させて理解する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
化学基礎 (文系)	2 年	2	高等学校 化学基礎 (第一学習社)	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) セミナー化学基礎 (第一学習社)、教員作成プリント

科目の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習活動	① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組みましょう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働力 ② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力 ③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働力 ④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。教養力・省察力・志力 ⑤ 日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	□物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを理解する。 □元素について学習し、同素体の存在を理解する。 □物質の三態変化は、熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第2節 原子の構造と元素の周期表 第3節 物質と化学結合 第2章 物質の変化 第1節 物質の質量と化学反応式	□原子の構造について理解する。 □元素の周期律と、周期表の成り立ちについて理解する。 □元素の周期律についてグラフを作成し、データを解析できる。 □共有結合と分子の形成について理解する。□主な共有結合の結晶について理解する。 □分子・金属結晶からできる物質とその利用について理解し、化学結合の種類によって、物質を分類できる。 □結晶の性質の違いについて、観察・実験を通して理解し、実験技能を習得する。 □元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質の質量とその応用を理解する。アボガドロ定数の確認について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 □物質の溶解と濃度について理解する。 □化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。	
後 期	第2節 酸と塩基の反応 第3節 酸化還元反応	□酸と塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 □中和を理解し、塩の種類を理解する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。中和滴定について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 □酸化・還元の定義を理解する。酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 □金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解する。金属のイオン化傾向について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 □酸化還元反応の利用例として、電池の原理を学習する。酸化還元反応の利用例として、金属の製錬を学習する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
化学基礎 (理系)	2 年	2	高等学校 化学基礎 (第一学習社)	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)、教員作成プリント

科目の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習活動	① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組みましょう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働力 ② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力 ③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働力 ④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。教養力・省察力・志力 ⑤ 日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	□物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを理解する。 □元素について学習し、同素体の存在を理解する。 □物質の三態変化は、熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第2節 原子の構造と元素の周期表 第3節 物質と化学結合 第2章 物質の変化 第1節 物質の質量と化学反応式	□原子の構造について理解する。 □元素の周期律と、周期表の成り立ちについて理解する。 □元素の周期律についてグラフを作成し、データを解析できる。 □共有結合と分子の形成について理解する。□主な共有結合の結晶について理解する。 □分子・金属結晶からできる物質とその利用について理解し、化学結合の種類によって、物質を分類できる。 □結晶の性質の違いについて、観察・実験を通して理解し、実験技能を習得する。 □元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質の質量とその応用を理解する。アボガドロ定数の確認について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 □物質の溶解と濃度について理解する。 □化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。	
後 期	第2節 酸と塩基の反応 第3節 酸化還元反応	□酸と塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 □中和を理解し、塩の種類を理解する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。中和滴定について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 □酸化・還元の定義を理解する。酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 □金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解する。金属のイオン化傾向について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 □酸化還元反応の利用例として、電池の原理を学習する。酸化還元反応の利用例として、金属の製錬を学習する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学	2年	2	高等学校 化学 (第一学習社)	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、教員作成プリント

科目の目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習活動	① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましましょう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働力 ② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力 ③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート(授業プリント)をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働力 ④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。教養力・省察力・志力 ⑤ 化学の基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な自然観を養うために、日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
後 期	■第Ⅰ章 物質の状態 第1節 化学結合と結晶 第2節 物質の三態と熱運動 第3節 気体の性質 第4節 溶液の性質 ■第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光 第2節 電池・電気分解 第3節 化学反応の速さ 第4節 化学平衡	☐ 化学結合と結晶の性質について、復習する。 ☐ 金属結晶・イオン結晶・共有結合の結晶の構造について理解する。 ☐ 分子間の結合、および分子結晶の性質や非晶質について理解する。 ☐ 物質の三態変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを理解する。 ☐ 気体分子の熱運動を復習し、気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係することを理解する。 ☐ 飽和蒸気圧を学習し、飽和蒸気圧と沸騰の関係を理解する。 ☐ 化学結合と物質の融点・沸点との関係を理解する。 ☐ ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、その応用を理解する。 ☐ 気体の状態方程式を理解し、その応用を理解する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 ☐ 理想気体と実在の気体との違いを理解する。 ☐ 溶解のしくみを理解し、溶解度について理解する。 ☐ 沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取り扱いを理解する。 ☐ コロイドを理解し、その溶液の性質を理解する。 ☐ 身近な化学変化をもとに、ヘスの法則、エンタルピー変化の意味や扱い方を理解する。 ☐ 電池・電気分解の原理とその化学変化について理解する。 ☐ 反応速度の求め方や反応速度に影響を与える要因について理解する。 ☐ 可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味と平衡定数の意味を理解する。 ☐ ルシャトリエの原理を理解し、ルシャトリエの原理の応用例としてアンモニアの製法を理解する。 ☐ 水の電離平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡について理解する。pH についての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。 ☐ 塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。 ☐ 緩衝液とその作用を理解する。 ☐ 溶解度積を理解し、その応用を理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎	2年	1	生物基礎 (第一学習社)	リードα生物基礎完成ノート(数研出版) ニューステージ生物図表(浜島書店) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力 ②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働能力 ③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力 ④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。思考力・省察力・協働能力 ⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力 ⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。教養力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点 及び 評価規準	知識技能 様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。	思考判断表現 実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	主体的な学習・取組態度 様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート・授業プリント ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート・授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート・授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	☐ 真核細胞には共通の構造があることを観察を通して理解を深める。 ☐ 原核細胞の観察を通して理解を深める。 ☐ 酵素の反応について理解を深める。 ☐ 遺伝子の本体であるDNAについて理解を深める。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	☐ 脊椎動物の血液の形態の違いについて理解を深める。 ☐ 脊椎動物の血液の形態の違いについて理解を深める。 ☐ ブタの腎臓を観察することで、腎臓について理解を深める。 ☐ 免疫による生体防御のしくみについて理解を深める。	
後期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全	☐ 生態系を構成する生物の役割について理解を深める。 ☐ 生態系における窒素の循環について理解を深める。 ☐ 植物群落の調査を模擬実験し、群落調査の方法についての理解を深める。 ☐ 溶岩台地上で生じる遷移についての理解を深める。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物	2年	2	生物 (第一学習社)	生物の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ生物図表(浜島書店) NEW GLOBAL生物(東京書籍) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。<u>教養力・表現力</u> ②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。<u>思考力・表現力・協働能力</u> ③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。<u>思考力・省察力</u> ④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。<u>思考力・省察力・協働能力</u> ⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確認めよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。<u>教養力・省察力・志力</u> ⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。<u>教養力・志力</u>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価基準	知識技能	思考判断表現	主体的学習・取り組む態度
	様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	☐ 授業状況の観察 ☐ ノート・授業プリント ☐ 課題への取組 ☐ 定期考査	☐ 授業状況の観察 ☐ ノート・授業プリント ☐ 定期考査	☐ 授業状況の観察 ☐ ノート・授業プリント ☐ 課題への取組

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	第1節 生命の起源と細胞の進化 ①生命の誕生 ②細胞の進化 第2節 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ①遺伝子とその変化 ②遺伝子の組み合わせの変化 第3節 進化のしくみ ①進化のしくみ ②種分化	・原始地球とその環境，化学進化 ・原核細胞と真核細胞の誕生 ・生物の進化と地球環境の変化との関係を見いだす ・遺伝子の変化と形質との関係を見いだす ・遺伝的多型 ・減数分裂と染色体の組み合わせ ・連鎖している遺伝子の組み合わせが変化することを見いだす ・組換えと組換え価 ・遺伝子頻度とハーディ・ワインベルグの法則 ・モデル実験から遺伝子頻度の変化について考察する ・はじめの集団の大きさと遺伝子頻度の変化について考察する ・生存に不利なアレルの遺伝子頻度の変化について考察する ・遺伝的浮動と中立進化 ・自然選択と適応進化 ・分子進化 ・隔離と種分化	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第4節 生物の系統 ①生物の系統と分類 ②細菌（バクテリア）とアーキア（古細菌） ②真核生物（ユーカリア） 第5節 人類の系統と進化 ①人類の系統と進化	・アミノ酸配列の違いをもとに，系統関係を推定できることを見いだす ・分子時計 ・平均距離法により系統樹を作成する ・分子系統樹と生物の系統 ・細菌，アーキア，真核生物 ・霊長類の進化 ・類人猿と人類の特徴を比較し，人類の進化の過程について考察する ・人類の進化と拡散	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
体 育	2 年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 (大修館)

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
学習活動	①運動の合理的、計画的な実践や体育理論の学習を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにします。 教養力・省察力・志力 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。 教養力・思考力・表現力・協働力 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養います。 思考力・協働力・省察力		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	主体的に学習に取り組む態度 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察 ○知識理解度テスト ○体育理論テスト	○グループ活動の観察 ○グループノート ○振り返りシート	○授業状況の観察

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	オリエンテーション 集団行動 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習）	通年で） ☐ 集合時間を守ることができる。 ☐ 規定の服装で活動することができる。 ☐ 用具の準備ができる。 ☐ グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	選択制授業Ⅰ（以下から1つ） ・陸上競技（走・跳・投） ・器械運動（マット運動） ・ダンス 選択制授業Ⅱ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・ソフトボール ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス （体育館） ・バドミントン （武道場） ・卓球 選択制授業Ⅲ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・ソフトボール ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス （体育館） ・バドミントン （武道場） ・卓球	☐ 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 ☐ 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。 ☐ 意欲的に練習に取り組むことができる。 ☐ グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 ☐ 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	
前 期 末 と 後 期 末	体育理論 ・運動やスポーツの技術と技能 ・運動やスポーツ技術の上達過程 ・運動やスポーツの技能と体力の関係 ・運動やスポーツにおける活動時の健康、安全の確保の仕方	☐ 集合時間を守ることができる。 ☐ グループ内でしっかり発言できる。 ☐ グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 ☐ グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 ☐ 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこない、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 保健

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
保 健	2 年	1	現代高等保健体育 (大修館)	図説現代高等保健 (大修館)

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。		
学習活動	①生涯の各段階における健康についての課題を理解し、社会生活における健康の保持増進のために必要な知識と技能を身に付けます。教養力・省察力・志力 ②健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養います。教養力・思考力・表現力・協働力 ③課題学習では、仲間と協力しながら、我が国や世界が抱える問題について、自ら課題を見つけだし、自ら考え、試行錯誤しながら、主体的に取り組むことができる能力を養います。教養力・思考力・表現力・協働力 ④体験的な学習では、仲間と協力しながら、自分と他者の健康について考え、生涯にわたり健康で安全な生活を送ることができるよう、必要な知識と技能を身に付けます。教養力・思考力・協働力・志力		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 思春期から中高年期における個人及び社会生活における健康問題について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	思考・判断・表現 自他の心身の健康や安全に関する課題を発見し、その解決を目指して、合理的、計画的に考え、選択すべき行動を適切に判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	主体的に学習に取り組む態度 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察 ○グループ活動の観察	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察 ○課題、ノートの取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	3 単元 生涯を通じる健康 01 ライフステージと健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚生活と健康 07 中高年期と健康 08 働くことと健康 09 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	☐ ライフステージによって健康の状況や健康課題が変化することを学習し、それぞれの段階での社会的支援を理解する。 ☐ 思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することを理解する。 ☐ 健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解する。 ☐ 加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解する。 ☐ 職業病や労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴いその質や量が変わってきたことを理解する。 ☐ 働く人の健康の保持増進は、職場の安全管理や健康管理と共に心身の両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解する。	講義型授業や、個人または班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。
後 期	4 単元 健康を支える環境づくり 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と健康 03 環境と健康にかかわる対策 04 ごみの処理と上下水道の整備 05 食品の安全性 06 食品衛生にかかわる活動 07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用 09 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	☐ 人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などは人々の健康に影響を及ぼしたり健康被害をもたらしたりすることがあることを理解する。 ☐ 健康への影響や被害を防止するためには、環境の汚染について発生の防止及び改善の対策が必要であることを理解する。 ☐ 上下水道の整備、廃棄物処理などの環境衛生活動は、自然や社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解する。 ☐ 食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われていることを理解する。 ☐ 環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められていることを理解する。 ☐ 我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、総合的な保健・医療サービスが提供されていることを理解する。 ☐ 生涯を通じて健康を保持増進するためには自己の健康上の課題を的確に把握し、各医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることを理解する。	講義型授業や、個人または班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽 I	2 年	3	MOUSA 1 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
学習活動	毎回の授業で、表現（<u>歌唱・器楽・創作</u>）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。 【歌唱】【器楽】では、1 人での演奏や少人数でのアンサンブル、全員での合唱・合奏というように、様々な形態の表現に取り組みます。仲間と聴き合い、演奏のアイデアを積極的に試みましょう。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u> 【創作】では、一人一曲、作曲をします。音を使って 0 から 1 を創り出す面白さを感じましょう。人によって完成する曲は様々です。人との違いを発見する楽しさも感じられます。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u> 【鑑賞】では、聴いて楽しむことに留まらず、得た知識から音楽を分析・理解することで、そのよさや美しさを自ら味わい、新たな魅力に気づいていきましょう。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	思考・判断・表現 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的に学習に取り組む態度 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	■ 歌唱 発声の基礎 校歌 独唱曲 ■ 器楽 アルトリコーダーの奏法 リコーダーアンサンブル ギターアンサンブル ■ 創作 音楽理論 旋律の変奏 ボディーパーカッション ■ 鑑賞 オーケストラ作品 協奏曲	□ 歌唱表現を深めていくために必要な、基礎的な技術を身に付ける。 □ 歌詞の意味を正しく理解し、旋律と歌詞の両面から捉えた表現を考え、それらをふまえて歌うことができる。 □ 呼吸や運指を理解し、音色やアーティキュレーション等の変化をつけて表現する。 □ アンサンブルにおける調和を工夫する □ ギターの基本的な奏法を学習し、奏法の工夫による演奏効果を表現に活用する。 □ 基礎的な記譜方法を理解する。 □ 旋律の変奏について学ぶ。 □ 基礎的なリズムの読譜力を身につける。 □ 作曲者の意図を汲み取りながら、音楽の特徴を感じとり、そのよさをあじわう。	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。 作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後期	■ 歌唱 日本歌曲独唱 混声3部合唱 ■ 器楽 ギター独奏（コード） 篠笛 ■ 創作 作曲 ■ 鑑賞 日本の伝統音楽 舞台音楽	□ 歌い合わせる力を伸ばし、一体感のある音色で、各パートと全体の調和を図る。 □ 言葉のもつ語感を音楽と関わらせ、音楽を分析しながら表現の工夫を考える。 □ コードの仕組みについて理解し、その働きを感じ取りながら弾き歌いで表現する。 □ 篠笛特有の奏法に触れ、簡単な曲を演奏体験する。 □ 旋律の作り方について理解し、自己のイメージにこだわりながら、簡単な曲作りを行う。 □ 作曲者・出演者・演出家などの意図、作品の特徴などについての考察を通し、舞台芸術や伝統文化に対する理解を深める。 □ それぞれの文化の特徴を把握し、比較しながら、そのよさを味わう。	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。 作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽Ⅱ	2年	3	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
学習活動	毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。 【歌唱】【器楽】では、1人での演奏や少人数でのアンサンブル、全員での合唱・合奏というように、様々な形態の表現に取り組みます。仲間と聴き合い、演奏のアイデアを積極的に試みましょう。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力 【創作】では、作曲をします。音を使って0から1を創り出す面白さを感じましょう。人によって完成する曲は様々です。人との違いを発見する楽しさも感じられます。また、音楽理論などを学ぶことにより、楽譜の内容と関連づけて表現や鑑賞に生かしましょう。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力 【鑑賞】は、聴いて楽しむことに留まらず、得た知識から音楽を分析・理解することで、そのよさや美しさを深く味わい、新たな魅力に気づいていきましょう。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	思考・判断・表現 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的に学習に取り組む態度 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 歌唱 発声の基礎 校歌 独唱曲 ■ 器楽 アルトリコーダーの奏法 リコーダーアンサンブル ギターアンサンブル ■ 創作 音楽理論 旋律の変奏 ボディーパーカッション ■ 鑑賞 オーケストラ作品 協奏曲	☐ 歌唱表現を深めていくために必要な、基礎的な技術を身に付ける。 ☐ 歌詞の意味を正しく理解し、旋律と歌詞の両面から捉えた表現を考え、それらをふまえて歌うことができる。 ☐ 呼吸や運指を理解し、音色やアーティキュレーション等の変化をつけて表現する。 ☐ アンサンブルにおける調和を工夫する ☐ ギターの基本的な奏法を学習し、奏法の工夫による演奏効果を表現に活用する。 ☐ 基礎的な記譜方法を理解する。 ☐ 旋律の変奏について学ぶ。 ☐ 基礎的なリズムの読譜力を身につける。 ☐ 作曲者の意図を汲み取りながら、音楽の特徴を感じとり、そのよさをあじわう。	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。 作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 歌唱 日本歌曲独唱 混声3部合唱 ■ 器楽 ギター独奏（コード） 篠笛 ■ 創作 作曲 ■ 鑑賞 日本の伝統音楽 舞台音楽	☐ 歌い合わせる力を伸ばし、一体感のある音色で、各パートと全体の調和を図る。 ☐ 言葉のもつ語感を音楽と関わらせ、音楽を分析しながら表現の工夫を考える。 ☐ コードの仕組みについて理解し、その働きを感じ取りながら弾き歌いで表現する。 ☐ 篠笛特有の奏法に触れ、簡単な曲を演奏体験する。 ☐ 旋律の作り方について理解し、自己のイメージにこだわりながら、簡単な曲作りを行う。 ☐ 作曲者・出演者・演出家などの意図、作品の特徴などについての考察を通し、舞台芸術や伝統文化に対する理解を深める。 ☐ それぞれの文化の特徴を把握し、比較しながら、そのよさを味わう。	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。 作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
美術 I	2 年	3	高校生の美術 1 (日本文教出版)	なし

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・鉛筆や絵の具など基本的な画材の扱い方や知識を学びつつ、主に絵画やデザイン、立体造形などの作品を制作します。 教養力・思考力・表現力・省察力 ・ipad を利用してイラスト作成や、レポート作成、作品鑑賞などをします。 教養力・思考力・表現力・志力 ・古今東西の美術作品を鑑賞し、自分自身にとっての「美しさとは何か」を考えます。 教養力・思考力・協働力・志力 ※書籍や各メディア、美術館などいろいろな場面において美術作品に親しみ、触れることで、「自分と美術」や「社会と美術」のつながりについて考えましょう。		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	思考・判断・表現 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 美術とは何か ■ 絵画 ・デッサン（卓上デッサン） ・絵の具について ・鑑賞（さまざまな風景画） ・風景画（油彩） ・相互鑑賞	☐ 小、中の図工・美術の学習を振り返り、高校の美術Ⅰへのイメージを持ち美術の学びの広がりと意味について考えることができる。 ☐ 鉛筆のグラデーションによる濃淡の幅を広げる。 ☐ 立方体、円筒、球体などの基本構造を理解した描き方を習得する。 ☐ さまざまな絵の具とその性質について理解し、油絵の具の基本的な扱い方を習得する。 ☐ 古今東西のさまざまな風景画を鑑賞し、自分なりの表現について考えを深める。 ☐ よく見て、感じて描く。戸外での風景から自分なりの視点で美しさを感じ取る。 ☐ さまざまな遠近法を学ぶ。 ☐ 他者の作品を鑑賞することで、多様な表現方法があることを知り、美術に対する理解を深める。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 絵画 ・デジタル絵画（iPadで描画アプリを使ってイラストを作成する。） ■ デザイン ・鑑賞 ・樹脂によるマグネット制作 ・原型制作（塑像） ・シリコンでの型取り ・相互鑑賞 ■ これからの私と美術	☐ デジタルツールを用いたイラスト作成の基本を学ぶ。 ☐ データの保存方法や著作権について学ぶ。 ☐ プロダクトデザインの作例を鑑賞し、人間が作った道具と美について考えたことをまとめる。 ☐ 個性豊かに発想し、独自のアイデアを構築し、創造的に表現することができる。 ☐ 型取りの原理を理解して計画的に制作に取り組むことができる。 ☐ 他者の作品を鑑賞することで、多様な表現方法があることを知り、美術に対する理解を深める。 ☐ これからの美術との関わりを考え「美術とは何か」について1年間の学びとともに振り返る。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
美術Ⅱ	2 年	3	高校生の美術 2 (日本文教出版)	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・進路に必要な実技を身に付ける科目です。 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱ったりするなど柔軟に学びます。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	思考・判断・表現 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■自由制作①（デッサン・着彩・その他） ■自由制作②（デッサン・着彩・その他）	□立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通） □自分の進路に応じた課題を選び制作する。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて３つの観点について評価をおこなう。
後 期	■自由制作③（デッサン・着彩・その他） ■自由制作④（デッサン・着彩・その他） ■自由制作⑤（デッサン・着彩・その他）	□立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通） □自分の進路に応じた課題を選び制作する。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて３つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
書道 I	2 年	3	書 I（光村図書）	なし

科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 （２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 （３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」の４つの分野を幅広く学びます。 ①臨書 「臨書」とは、すぐれた古典を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な知識と、幅広い表現技法を身に付けます。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力 ②創作 臨書で身に付けた力を活かして創作活動に取り組みます。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力 ③鑑賞 作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かします。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 ・書の表現の方法や形式、多様性などについて、書の幅広い活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するために必要な基礎的な技能を身に付けている。	思考・判断・表現 ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 ・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 書写から書道へ ■ 仮名の書 ・単体、連綿、変体仮名 ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・仮名創作 ■ 篆刻 ・自分の姓名印をつくる	□「書写」と「書道」の関連と違いについて理解する。 □ 仮名の変遷、種類、歴史的背景を理解する。 □ 単体・連綿の表現方法を身につける。 □ 文字群と余白の配置などによって変わる効果や変体仮名の効果を理解し、表現を構想することができる。 □ 古典臨書で学んだ用筆法や運筆法を活かして漢字創作を行う。 □ 印稿を工夫し、創造的に表現する。 □ 執刀法を身につけ、彫り残しなく最後まで仕上げるができる。	単元ごとに「学習活動」の①②③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	■ 漢字の書（楷書） さまざまな楷書作品の臨書と鑑賞 ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛橛造像記 ・楷書創作 ■ 漢字の書（行書、草書、隸書） ・蘭亭序（条幅作品の制作） ・風信帖 ・真草千字文 ・曹全碑 ■ 漢字仮名交じりの書 ・自分で選んだ言葉を書く ・完成作品の鑑賞会 ■ 生活の中の書	□ 各古典の特徴を理解し、用筆法を習得する。 □ 書道史をはじめとする理論を学び、古典作品の背景を理解する。 □ 字典の使い方と書体の判別ができるようになる。 □ 古典臨書で学んだ用筆法や運筆法を活かして漢字創作を行う。 □ 蘭亭序及び、王羲之について学び、作品にまつわるエピソードや古典の概要を理解する。 □ 行書、草書、隸書体の特徴を理解し、基礎的な表現ができる。 □ 古典を応用した書の幅広い表現方法を理解する。 □ 運筆・用筆の違いによる変化を理解し、作品へ生かすことができる。 □ 文字と余白の関係を理解し、全体構成を工夫することができる。 □ 制作の意図や表現の工夫点、他の生徒の作品を鑑賞し、自分の言葉で表現することができる。 □ 冠婚葬祭の書のマナーを身に付けることができる。	単元ごとに「学習活動」の①②③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
美術Ⅱ	2 年	3	高校生の美術 2 (日本文教出版)	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・進路に必要な実技を身に付ける科目です。 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱ったりするなど柔軟に学びます。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u>		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	思考・判断・表現 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■自由制作①（デッサン・着彩・その他） ■自由制作②（デッサン・着彩・その他）	□立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通） □自分の進路に応じた課題を選び制作する。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて３つの観点について評価をおこなう。
後 期	■自由制作③（デッサン・着彩・その他） ■自由制作④（デッサン・着彩・その他） ■自由制作⑤（デッサン・着彩・その他）	□立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通） □自分の進路に応じた課題を選び制作する。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて３つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語コミュニケーションⅡ

科 目	学年	単位数	教 科 書	副 教 材
英語コミュニケーションⅡ (英語ⅡA)	2 年	3	FLEX English CommunicationⅡ (啓林館)	・FLEX English CommunicationⅡ ワークブック Standard (啓林館) ・EARTHRISE アースライズ総合英語(数研出版) ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の 5 つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
学習活動	①「聞くこと」 文章から必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 ②「読むこと」 文章から必要な情報を読み取り、要点や詳細を把握する。 ③「話すこと（やり取り）」 情報や自分の考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。 ④「話すこと（発表）」 情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく話して伝える。 ⑤「書くこと」 情報や自分の考えを論理性に注意して複数の段落から成る文章で手紙に書いて伝える。 ①～⑤を適宜授業の中で実践します。」そのために次の 1)～3)を意識して学習活動を行います。 1)「予習－授業－復習」のサイクルの習慣化 予習で自分の理解できること、できないことを明確にして授業に臨みます。そして授業で内容を十分に理解したうえで、復習で内容を定着させるサイクルを作ります。 2)授業中はしっかり活動する 「英語を使うことができる」とはインプット・インテイク・アウトプットの繰り返しによって、反射的に英語が出てくる状態になっていることをいいます。授業では常にクイックレスポンスを意識して内容を取り入れ(インプット)、繰り返し音読をし、暗唱できる英文を増やし、英語を深く自分の中に定着させます(インテイク)。また、ペアワークやグループワークで実際に使う経験を重ねていきます。 3)五感を使って英語を学ぶ 目(読む)耳(聞く)口(話す)手(書く、ジェスチャーをする)をできるだけ複数同時に使って英語の学習に取り組みます。身体感覚を駆使して学習した英語は自分の中に定着していきます。		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 〔技能〕 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	思考・判断・表現 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題等の提出 ○定期考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題等の提出 ○定期考査、パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・プリントの点検 ○課題等の提出 ○定期考査、パフォーマンステスト

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	■ Lesson 1 Anime Pilgrimages ■ Lesson 2 Iwaya Keisuke and the Pursuit of Dreams ■ Lesson 3 The Surprising History of Salt ■ Lesson 4 A Future World, with or without Sea Turtles ■ Lesson 5 The Psychology of Waiting in Line	□ アニメ聖地巡礼と地域に与える影響について書かれた文章を読み、受け身の不定詞、受け身の進行形を使用した構文の意味や構造を理解する。 □ 岩谷圭介氏のふうせん宇宙撮影について書かれた文章を読み、助動詞 + 完了形、受け身の完了形を使用した構文の意味や構造を理解する。 □ 塩の歴史的な役割について書かれた文章を読み、if 節のない仮定法を使用した構文の意味や動名詞の意味上の主語の構造を理解する。 □ ウミガメの生態と環境保全のために私たちがすべきことについて書かれた文章を読み、as if を用いた仮定法、疑問詞 to do を使用した構文の意味や構造を把握する。 □ 長い列に並んで待つときの人間の心理について書かれた文章を読み、同格を導く接続詞 that、関係副詞の非制限用法を使用した構文の意味や構造を理解する。	单元ごとに、「学習活動」の①～⑤を行い、英語で表現する活動を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ Lesson 6 The Human Library ■ Lesson 7 More Than Just Shelters ■ Lesson 8 Infectious Diseases and Humans ■ Lesson 9 Fashion for Pride ■ Lesson 10 Larry Page and the Dream of Google	□ ヒューマンライブラリーのエピソードと共生社会を実現するために私たちがすべきことについて書かれた文章を読み、否定の分詞構文、完了形の不定詞を使用した構文の意味や構造を理解する。 □ 坂茂氏の被災地での慈善活動と若者へのメッセージについて書かれた文章を読み、部分否定、f S' were to V', S would V ... を使用した構文の意味や働きを理解する。 □ ウイルスの実態と感染症の歴史について書かれた文章を読み、付帯状況の with を使用した構文や受け身の分詞構文の意味や働きを理解する。 □ コンゴ共和国の実態とサブールの考えについて書かれた文章を読み、倒置を使用した構文や完了形の分詞構文の意味や働きを理解する。 □ Google 誕生秘話と夢を叶えるために大切なことについて書かれた文章を読み、複合関係代名詞、二重否定（肯定の意味を表す）を使用した構文の意味や働きを理解する。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 論理・表現Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
論理・表現Ⅱ(英語ⅡB)	2年	2	EARTHRISE 英語総合演習 (数研出版)	・EARTHRISE アースライズ総合英語(数研出版) ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動に行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を養う。		
学習活動	①Review・基本問題で文法機能・表現を学び、 ②身に付けた文法や表現を for EXPRESSION で活用して、様々な場面・状況において自身の考えや気持ちを伝える方法を習得する。 ③日本語から英語への自動化を図る。 ①～③を確実なものにするために次の1)～3)を意識して学習活動を行います。 1)「予習－授業－復習」のサイクルの習慣化 予習で自分の理解できること、できないことを明確にして授業に臨みます。そして授業で内容を十分に理解したうえで、復習で内容を定着させるサイクルを作ります。 2)授業中はしっかり活動する 「英語を使うことができる」とはインプット・インテイク・アウトプットの繰り返しによって、反射的に英語が出てくる状態になっていることをいいます。授業では常にクイックレスポンスを意識して内容を取り入れ(インプット)、繰り返し音読をし、暗唱できる英文を増やし、英語を深く自分のの中に定着させます(インテイク)。そしてペアワークやグループワークで実際に使う経験を重ねていきます。 3)スポーツと同じように体を使って英語を学ぶ 目(読む)耳(聞く)口(話す)手(書く、ジェスチャーをする)をできるだけ複数同時に使って英語の学習に取り組みます。身体感覚を駆使して学習した英語は自分の中に定着していきます。		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 〔技能〕 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	思考・判断・表現 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・プリントの点検 ○課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	■ 1 いろいろな文・文の組み立て方 ■ 2 動詞と時の表し方 ■ 3 助動詞 ■ 4 受動態 ■ 5 不定詞 (1) ■ 6 不定詞 (2) ■ 7 動名詞 ■ 8 分詞 ■ 9 関係詞 (1)	☐ 各課で学習する文法や表現を使って、文章を書くことができるようにする。 ☐ 各課で学習する文法や表現を理解し、話したり聞いたりすることができるようにする。 ☐ 与えられた日本語を、学んだ表現を含む英語の文で書く／話すことができるようにする。 ☐ 前課で学んだ表現を、文脈の中で用いることができるようにする。 ☐ 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができるようにする。	单元ごとに、「学習活動」の①、②、③を音読練習やペアワークを通しておこない、英語で表現する活動を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 10 関係詞 (2) ■ 11 比較 ■ 12 仮定法 ■ 13 話法 ■ 14 否定・さまざまな表現 ■ 15 接続詞 ■ 16 前置詞・名詞・冠詞・代名詞 ■ 17 形容詞・副詞・群動詞	☐ 与えられた題材を通じて、いろいろな表現についての意味・用法を理解し、それらを場面に応じて適切に使えるようにする。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 GLOBAL ENGLISH II

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
GLOBAL ENGLISH II (GE II)	2 年	1		・EARTHRISE English Logic and Expression I Advanced (数研出版) ・EARTHRISE アースライズ総合英語 (数研出版) ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	情報を伝えたり、意見交換をしたりするための基本となる知識を身につけ、自分の意見や考えをまとまりのある英語でアウトプットしたりすることで、スピーキングを中心とした 5 領域にわたる英語運用能力の伸長を目指す。		
学習活動	■サマライジング [Summarizing] 日常生活の身近な話題や既習の英文の内容について、聞いたり読んだりした概要をまとめる活動 ■インタラクション [Interaction] 日常生活の身近な話題について、ペアで意見交換する活動 既習の英文の内容についてグループで意見交換する活動 ■プレゼンテーション [Presentation] 既習の英文のトピックについて書いた意見を相手に伝える活動 (ポスター発表等) ■オンライン英会話 Weblio 英会話を利用したネイティブスピーカーとのマンツーマンの英会話レッスン		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に回答したり、日常的な話題について、英語で情報や考えなどを相手に伝えたりすることができる。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語で答えようとする姿勢がある。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○定期考査、パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	ターム①：Writing 中心の活動 Part 1：Basic Expressions ・Have you ever experienced any cultural differences? ・Where do you usually buy things? ・International events and cultural exchange	■ Writing 中心の活動 ・Analyzing □読んだり聞いたりして得た情報を整理し、概略を英語でまとめることができる。 ・Summarizing □日常生活の身近な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、要点を英語でまとめることができる。 □日常生活の身近な話題や社会的な話題について、自らの意見を英語で論理的に書くことができる。	各定期考査間の区切りを「ターム」とし、各ターム毎に Speaking 中心の活動と Writing 中心の活動を交互に行う。Speaking 中心の活動は A L T とのティーム・ティーチングとする。
	ターム②：Speaking 中心の活動 ・How have you been lately? ・How do you watch movies and things? Part 2：Functional Expressions ・Making life better	■ Speaking 中心の活動 ・Interaction □既習の英文の内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を習得し、それらを用いて情報や考えや気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。	Part1(Basic Expressions) では、文法の復習にも重点を置く。 Part2(Functional Expressions) では、機能表現の習得に重点を置く。
	ターム③：Writing 中心の活動 ・Good eating habits ・Visiting a new place ・Where would you like to live in the future?	□英語の質問に対して反射的に答える習慣や的確かつ簡潔に答える力を身につけ、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話すことができる。	Part3(Express Yourself Logically) では、論理的な自己表現活動に重点を置く。
	ターム④：Speaking 中心の活動 ・Which candidate is the right person? Part 3：Express Yourself Logically ・Advertising a language school ・Inventions and discoveries	■ 共通 □既習の英文の内容について、使用する語句や文等を復習し、それらを活用しながら書いた意見を、ポスター等を利用して発表することができる。	年間2～3回のオンライン英会話によって、外国人との即時的な表現活動を行い自身の英語力の向上を確認するとともに課題を発見する。
	ターム⑤：Writing 中心の活動 ・How people use their smartphones ・Our accommodation in Okinawa ・Getting ready for high school exams	□既習の英文のトピックについて、使われた語句や文等を復習し、それらを活用しながら書いた意見を、ポスター等を利用して発表することができる。	年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期		■ 共通 □Listening 活動を通して情報を正確に得ることができる。 □ペア・グループワークにおいて、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を持つことができる。 □教材の内容と文化的・習慣的背景を理解することができる。 □学んだ語句や表現を理解し、口頭練習を繰り返し定着させることができる。	Speaking 活動や Writing 活動は、パフォーマンステストも活用して評価を行う。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 家庭基礎

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
家庭基礎	2 年	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		
学習活動	・生活にかかわる事柄（衣食住、消費生活、家族、福祉）を各ライフステージの生活課題に関連づけて主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分以上が講義、残りが実験・実習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力 ・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。学習ノートは空欄補充を教科書を活用しておこない復習をします。 思考力 表現力 ※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力 ※生活技術の習得も生きる力をつけるための大切な学習となります。卒業後、大学生活で一人暮らしをする場合に困らない程度の技術を身につけましょう。 志力 ※日頃から、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	○定期考査 ○授業状況の観察 ○作品	○授業状況の観察 ○ワークシート（考察） ○実習・課題の取り組み ○発表 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート（提出） ○実習・課題への取り組み

年間指導計画

学期	学 習 内 容		学習のねらい	学習活動
前期	■ 家族・社会と の共生	■ 生活の自立	□ 家庭科の学習が、家族・社会の共生、生活の自立、生活の創造につながることを理解し、学習に対する意欲を高める。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実験・実習などをおこない、3つの観点についての評価をおこなう。
	第1章 自分らしい人生 をつくる	第8章 経済生活を営む	□ 男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活のあり方について考える。	
		第5章 食生活をつくる	□ 高校卒業後について経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。	
	ホームプロジェクト (夏課題)		□ 日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。	
後期	第2章 子どもと共に育 つ		□ ホームプロジェクトの発表を通して、生活課題を発見する視点やその課題を解決するための手立てについて理解を深める。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実験・実習などをおこない、3つの観点についての評価をおこなう。
		第6章 衣生活をつくる	□ 子どもの育つ力と発達段階を知り、人生の初期における親・家族や周囲の人々のかかわりの大切さを学ぶ。	
	第3章 高齢社会を生 きる		□ 被服のさまざまな役割を整理し、被服管理できるための知識と技術を身につける。	
	第4章 共に生き、共に 支える		□ 高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解し、高齢者を支える制度と課題を考える。	
後期		第5章 食生活をつくる	□ 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念と内容を理解する。	
		第7章 住生活をつくる	□ 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。	
		■ 生活の創造 第9章 生活を設計する	□ 日本の伝統的な食文化を知る。	
			□ 住居の機能や間取りについて理解し、ライフステージにあった住居を考える。	
			□ これまでの学習を踏まえて、自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 自然科学探究 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
自然科学探究 I	2 年	1	なし	自作教材(プリント)

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自然科学分野の諸問題について探究する学習を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	①【脳をアクティブに】講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。<u>教養力・表現力</u> ②【わかったを実感】対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。<u>思考力・表現力・協働力</u> ③【できたを実感】問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。<u>思考力・省察力</u> ④【わかったを実感】観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して学習活動準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。<u>思考力・省察力・協働力</u> ⑤【家庭学習への繋がり】授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。<u>教養力・省察力・志力</u> ⑥【その他】授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。<u>教養力・志力</u>		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価方法	○ワークシート・レポート 等の成果物 ○自己評価・相互評価	○活動の状況などの観察 ○ワークシート・レポート 等の成果物 ○自己評価・相互評価	○活動の状況などの観察 ○ワークシート・レポート 等の成果物 ○自己評価・相互評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期 後 期	テーマ1 ▼（物理基礎または生物基礎で、すでに学習した分野のうち、一定の範囲の中から、探究する事象を決めたテーマ）	○必要な知識及び技能についての講義 ○課題を設定、検証可能性の吟味 ○課題解決に至る仮説を設定 ○観察・実験の計画を立案 ○観察・実験 ○結果を考察、結論を導出 ○考察等の成果を発表、振り返り	授業態度, 発問評価, 実 験 レ ポ ー ト, 振り返りシート
	テーマ2 ▼（物理基礎・物理または生物基礎・生物で、すでに学習した分野のうち、一定の範囲の中から、探究する事象を決めたテーマ）	○必要な知識及び技能についての講義 ○課題を設定、検証可能性の吟味 ○課題解決に至る仮説を設定 ○観察・実験の計画を立案 ○観察・実験 ○結果を考察、結論を導出 ○考察等の成果を発表、振り返り	
	テーマ3 ▼（物理基礎・物理または生物基礎・生物で、すでに学習した分野のうち、一定の範囲の中から、探究する事象を決めたテーマ）	○必要な知識及び技能についての講義 ○課題を設定、検証可能性の吟味 ○課題解決に至る仮説を設定 ○観察・実験の計画を立案 ○観察・実験 ○結果を考察、結論を導出 ○考察等の成果を発表、振り返り	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 フードデザイン

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
フードデザイン	2 年	3	フードデザイン (実教出版)	

科目の目標	家庭の生活に関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
学習活動	・食のさまざまな分野が主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実習・演習などの実践的・体験的な学習です。教養力 思考力 ・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。思考力 表現力 ※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。協働力 省察力 ※実際に家庭で調理をしたり、日本の食を取り巻く現状を調べたり聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。志力 ※日頃から、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。教養力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の充実向上を担う職業人として、食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、それを合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	○定期考査 ○授業状況の観察 ○実習作品	○授業状況の観察 ○ワークシート（考察） ○実習・実験への取り組み ○発表 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート（提出） ○実習・課題への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第 2 章 栄養素の働きと食事計画 ①からだのしくみと食べ物 ②炭水化物 ③脂質 ④たんぱく質 ⑤ビタミン ⑥ミネラル ⑦水 ⑧消化と吸収 ⑨食事摂取基準と食事計画 ⑩ライフステージと栄養計画	☐ 人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを理解する。 ☐ 各種栄養素の特徴と体内でのはたらき、代謝について理解する。 ☐ 栄養に偏りのある食事内容について改善計画を考えさせ、食生活を向上させる。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、3つの観点についての評価をおこなう。
	第 4 章 調理の基本 ①調理とおしさ ②調理操作 ③調味操作	☐ おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ☐ 計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につける。	
	第 6 章 フードデザイン実習 ①和風献立 ②洋風献立 ③中華献立 ④行事食	☐ 調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ☐ 栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について理解し、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。	
後 期	第 5 章 料理様式とテーブルコーディネート	☐ 身につけた知識を調理にいかし、手際よく作り、場面にあったテーブルコーディネートができる。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、3つの観点についての評価をおこなう。
	第 6 章 フードデザイン実習 ①和風献立 ②洋風献立 ③中華献立 ④行事食 ⑤供応食 第 1 章 食生活と健康 ①食事の意義と役割 ②食をとりまく現状	☐ 自分および家族の健康を考えた日常料理を知り、それが調理できる。 ☐ 弁当に関する料理の要点を知り、栄養のバランスや味の調和がとれた弁当料理を作ることができる。 ☐ 家族、友人等集団での食事を共にすることの意義など、食事に関わる利点を確認する。 ☐ 現代の食に関する問題点を把握する。 ☐ 各国の食糧自給率を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる。 ☐ 市場にあふれる食材の背景にあるものに気づき、食料の価値を考える。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 スポーツ I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
スポーツ I	2 年	3	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 (大修館)

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
学習活動	①陸上競技や水泳競技の合理的、計画的な実践を通して、専門的な技術や高度な技能を高め課題の解決に向けて取り組むことにより、陸上競技や水泳競技のもつ特性や魅力に触れ、楽しさや喜びを味あうためのポイントを身に付けます。教養力・思考力・省察力 ②陸上競技や水泳競技の学習を通して、生涯を通してのスポーツ振興にかかわることができる資質や能力を身に付けます。教養力・思考力・省察力・志力 ③競技会の実施や大会への参加を通して、公正な態度や、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たす態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。思考力・省察力・表現力・協働力		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 自分の能力に応じた技能で、練習や競技をすることができる。 選択した種目について、動きのポイントを身に付け、その技能を高め、競技したり記録を向上させたりすることができる。 選択した種目の特性や技術の構造、練習方法、学習の進め方を知っている。 選択した種目のルールや競技方法、審判法及び競技会の企画や運営方法を知っている。	思考・判断・表現 自分の能力に応じた目標記録や練習課題を設定している。 課題解決のための合理的な練習方法を工夫している。 自分の能力を最大限に発揮できるように競争相手を選んだり競技の方法を工夫したりしている。 グループノートの記入を通して確実に振り返りを行うことができ、さらに次の目当てを設定することができる。	主体的に学習に取り組む態度 競争したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 互いに協力し、励まし合いながら進んで練習や競技を行おうとする。 体の調子を確認し合ったり、活動場所や器具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとする。
評価方法	○パフォーマンステスト ○授業状況の観察 ○知識理解度テスト	○グループ活動の観察 ○グループノート ○振り返りシート	○授業状況の観察

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	オリエンテーション I 陸上競技 ・やり投げ II 水泳競技（競泳競技） ・クロール ・平泳ぎ ・バタフライ ・背泳ぎ	☐ 集合時間を守ることができる。 ☐ 規定の服装で活動することができる。 ☐ 用具の準備ができる。 ☐ 正しい知識を身につけることができる。 ☐ 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 ☐ 計画に沿って、活動することができる。 ☐ 専門的な技術の習得や高度な技能の上 達を目指して、意欲的に学習（練習）に 取り組むことができる。 ☐ 健康面や安全面に配慮して、取り組むこと ができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	III 陸上競技 ・三段跳び IV 陸上競技 ・長距離走	☐ 集合時間を守ることができる。 ☐ 規定の服装で活動することができる。 ☐ 用具の準備ができる。 ☐ 正しい知識を身につけることができる。 ☐ 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 ☐ 計画に沿って、活動することができる。 ☐ 専門的な技術の習得や高度な技能の上 達を目指して、意欲的に学習（練習）に 取り組むことができる。 ☐ 健康面や安全面に配慮して、取り組むこと ができる。	「学習活動」の①をおこない、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。